

G7伊勢志摩サミットの本質を明らかにし、「異議あり！」の声を上げよう

松本 朗（ATTAC東海）

サミットって何？

サミットって何だろう？というのが正直なところで、詳しいことは未だによくわかっていないのが本音なのですが、今回のG7伊勢志摩サミットについて書いてみたいと思います。

このサミットというのは1975年11月15日～17日にフランスで行われたのが最初で、この当時はフランス、アメリカ、イギリス、西ドイツ、イタリア、日本の6か国で行われ、正式名称は「第1回先進国首脳会議」でした。その後、1年に1回参加国が交代で開催しましたが、参加国は6各国だったり8か国だったり、はたまた7か国だったり増えたり減ったりしています。日本でも過去5回行われていますが、そのたびに報道されるのが「厳重な警備」です。

厳重警備・デモ・戦争会議？

子どものころからサミットとは聞いたことはあるのですが、結局のところ何が話し合われているのか全くわかりませんでした。そしてもう一つはやたらと反対のデモが行われる事。しかし何のために行われているのかわからないので、反対デモも何のために行われているのかわからなかったのですが、1986年の東京サミットのときにテレビのニュースで当時シリアのカダフィ大佐が「サミットは戦争会議だ。」「日本国民は反対するべきだ」というような発言をする画像が報道されたのを今も印象深く覚えています。戦争会議？戦争会議なの？サミットって、と、疑問というか興味というか、もっとも国家権力のしかも先進国と呼ばれる首脳がおこなう会議などろくでもないものだろうと漠然と思っていましたが、とにかく1986年の東京サミットが、私がサミットについて考え始める最初になりました。

2001年ジェノバサミット反対闘争の衝撃

しかしその後、日本でも何回かサミットが行われましたがあまりかかわる事もなく、その頃、所属していた反戦運動団体も形式的に参加するみたいで、

あまり深く感心を持っていなかったように思います。

ところが2001年のイタリアのジェノバで行われたサミットでは凄まじい反対闘争が繰り広げられ、約20万人もの人々がデモを繰り広げました。これに対しイタリア警察はデモに参加した青年一人を射殺するという事がおこりました。この反サミット闘争の高揚は社会運動にかかわっている者であればいやでも知るところになりました。私もこの時、初めて反グローバリズム運動というものを知りました。また同時に新自由主義というものも知りました。これにより貧困と格差が拡大していったのだと知り始めたところでした。

世界中で貧困が拡大

日本でも「貧困」が社会問題になり始めました。しかし貧困は実際には戦前、戦後からありましたが、戦後の貧困は国家の経済政策の結果というよりは、被差別部落と在日朝鮮人の人々に現れ、差別として貧困があったと思います。まず上下水道がわずかしき無い。電気がわずかしき通っていない。ガス設備もない。家が不良住宅で河川や崖の下に住まざるを得ない。さらに貧困は子どもたちが学校に行けない状況を生み出し、文字を奪われ、知識を奪われるという結果を生み出しました。このような状況ではありましたが、被差別部落の人々は部落解放同盟を組織し、在日朝鮮人は朝鮮総連を組織し、闘うことによって見事に貧困を覆すことに成功しました。教育では解放同盟が義務教育における教科書の無償化を勝ち取り、朝鮮総連は朝鮮学校を自力で建設し、言語と文化、誇りと民族のアイデンティティーを奪い返しました。問題は最初に解放同盟と朝鮮総連に組織された以外の人々に貧困の波が襲いかかり拡大していったことだと思います。

世界的にみても貧富の差は拡大しているばかりです。2015年10月の中国メディアの華爾街見聞は「グローバル・ウェルス・レポート」を引用し、わずか1%の超富裕層が世界全体の家計資産の50%を保有していると紹介しました。さらに、超富裕層に次ぐ富裕層は全体の10%で、この2つのセグメントが世界の家計資産総額の87.7%を保有している計算だと伝えました。逆に、世界の貧困層は人口が多いにもかかわらず、資産総額は全体の1%にも満たないと論じました。記事は、2000年から07年にかけて、1%の超富裕層と10%の富裕層が保有

する家計資産が世界全体の家計資産総額に占める割合は縮小し続け、貧富の差も縮小し続けていたと指摘する一方、08年から逆転し、再び貧富の差が拡大していると紹介しています。

さらに、貧富の差が拡大している最大の理由は「金融資産」の有無にあると指摘しています、08年から世界的に株価が上昇したことで、米国など先進国では金融資産を保有する富裕層の人びとの資産価値が膨らんだと論じました。また、米国国内においても貧富の差は拡大しているとし、米国の人口の90%に相当する人びとが保有する資産総額と、人口の0.1%にあたる超富裕層が保有する資産総額がほぼ同等であることを指摘しました。

7か国だけで勝手に決めるな

サミットでは後進国における債務問題、地球温暖化の問題、核兵器や原発の問題などについても話し合われるそうですが、そもそもサミットで話し合わせ、決定した事は国連も法律も関係のないところで決められるものであり、わずか7~8か国で世界の仕組みを勝手に決めようというものです。他の圧倒的多数の国々や市民の声など聞かずに。先に書いた貧困を世界化したのは先進国であり、そんな国が勝手に世界の仕組みを作るといってもそれが労働者や農民、市民のためになるはずがないし、今までもなかったと思います。今年行われる伊勢志摩サミットもそういうものとして開催されるでしょう。

私自身、サミットについてまだまだ詳しく理解しているとは言えず難しい課題ですが、これから行われる伊勢志摩サミットに対する様々な集会やデモは、サミットとは何なのかという事を明らかにしていくと思います。5月8日と21日に予定されている講演集会、デモは少数の集まりにしかならないでしょうが、それでもサミットが私たちに何をしてきたのか？これから何をしようとしているのかを明らかにし、街頭に出て「伊勢志摩サミットに異議をあり！」と声を上げていきたいと思います。

・上着が異様に膨らんでいる、身を寄せてヒソヒソ話・・・変な荷物を持っている・・・こんな人は全て不審者なので通報を！
こんなポスターが、地下鉄や公共の施設、スーパーなど街中いたるところに……。私たちは犯罪者か！



G7伊勢志摩サミットを問う part2

日時：5月8日（日） 13時30分～
場所：ウィルあいち（セミナールーム5）
講師：小倉利丸さん

富山大学名誉教授。

ピープルズ・プラン研究所共同代表。

※詳細は同封のチラシを参照下さい。

G7伊勢志摩サミットを問う part3

日時：5月21日（土）

13時30分開始～16時終了

講演：西谷和文さん

（イラクの子どもを救う会）

※戦争を生み出しているのはだれ？

シリアの内戦と難民！Sのテロの原因を探る

場所：名古屋市教育館講堂

会場カンパ800円

※16時15分デモ出発

勝手に決めるな！私たちの世界を！

戦争と格差を生み出すG7に異議あり！

名古屋デモ

主催：G7伊勢志摩サミットを問う集会実行委員会